調査の概要と経歴データ・セット

１．調査の概要

「全国調査『戦後日本の家族の歩み』」（略称 NFRJ－S01）は、全国レベルの社会調査データを収集し社会学的に分析することを通じて戦後半世紀あまりの日本家族の変化と持続を明らかにすることを目的に企画・実施された。調査の概要は以下のとおりである。調査企画、調査票、標本抽出、回収状況、データの特徴などの詳細は、第一次報告書『全国調査「戦後日本の家族の歩み」』（2003）を参照してほしい。

調査地域：全　国
調査時期：2002 年 1 月 24 日～3 月 3 日
調査対象：2001 年 12 月末日時点で満 32～81 歳の女性
（1920 年 1 月 1 日～1969 年 12 月 31 日出生）
調査方法：訪問留置法
標 本 数：5,000
抽出方法：層化二段無作為抽出法
地点数：312 地点
有効回収数／回収率：3,475／69.5％
実査委託：社団法人 新情報センター

２．調査項目

本調査は、女性を調査対象（情報提供者）として、家族の過去の経験・履歴情報を回顧法（回想法）によりたずねるというデザインを採用した。調査項目は次のとおりである。

(1) 結婚の経験・配偶者の情報
(2) 配偶者との離死別・再婚歴
(3) 結婚後の親との同居歴・近居歴
(4) 子どもの情報と第１子の育児経験
(5) 既婚子との同居・近居経験
(6) 回答者の出身環境
(7) 回答者の就業歴
(8) 親・義親の介護・看護状況
(9) 回答者の介護・看護歴
(10) 回答者のきょうだい
(11) 結婚後の住居・転居経験

３．経歴データ・セット

上に示したように、本調査は、家族に関するさまざまな経歴情報――出来事経験に関する時点情報――を収集している。たとえば、結婚後の親との同居歴については、同居の開始時点と終了時点（別居または死別した時点）を測定し、また回答者の就業歴については、６カ月以上続いた仕事すべてについて開始時点と終了時点および従業上の地位を測定している。こうした時点情報を用いて集計・分析するためには、元号年で記録された生の時点情報を西暦年に変換するだけでなく、ライフコース上の各時点の状態を表す変数――親との同居歴であれば、結婚後の各年の同居・別居を表す変数、就業歴であれば各歳の就業状況を表す変数――に変換しなければならない。とはいえ、こうした合成変数を作成する作業には、たいへんな労力と時間が必要である。

本報告書の分析を進めるにあたり、第一次報告書の段階で一部のメンバーが作成した合成変数をとりまとめて経歴データ・セットを作成して、共同で利用することとした。経歴データ・セットの概要は以下のとおりである。なお、これらの合成変数の作成者は、結婚歴と同居歴が加藤彰彦（明治大学）、就業歴が安藤由美（琉球大学）、介護・看護歴が菊澤佐江子（奈良女子大学）である。

(1) 結婚歴

初婚年齢、離婚年齢（初婚の離婚のみ）

(2) 結婚後の親との同居歴

結婚(初婚)年から結婚後 30 年まで各年の回答者自身の親との同別居状況

結婚(初婚)年から結婚後 30 年まで各年の配偶者の親と同別居状況

コード：0 別居（親死亡を含む），1 同居（初婚），2 同居（再婚），7 非該当（調査時点による観察打ち切り），8 該当（未婚），9 無回答

(3) 就業歴

10 歳から 77 歳までの各歳の就業状況および従業上の地位

コード：0 仕事についていない，1 正社員（正職員、役員を含む），2 自営（家族従業員を含む），3 パート（アルバイト、派遣、内職を含む），12 正社員＋自営，13 正社員＋パート，23 自営＋パート，77 就業（仕事内容不明），88 非該当（年齢による観察打ち切り），99 無効（時点情報不備）

※12，13，23 は同年の内に転職が行われたケース。前職と次職のコードの組み合わせ（順不同）である。

(4) 介護・看護歴

10 歳から 77 歳までの各歳の介護・看護状況

コード：0 なし，1 あり，8 非該当（年齢による観察打ち切り），9 無回答

（加藤彰彦・明治大学）